

# 生き残りへ 安価な原料確保

## 主力製品の海外生産増強

2017年に米国内でシエールガス由来の安い基礎化学品生産が本格化する。産油国の中東、最新設備の新設が相次ぐ中国でも安さを武器にした化学品生産が活発化する中、割高な石油を輸入して自動車・電子部材の素材に加工する国内化学品生産は生き残りをかけた競争に立たされた。カギを握るのは競争相手に対抗できる安い原料の確保。各社ともサウジアラビアやシンガポールで主力化学品の海外生産増強に動き出した。

### 住友化学 サウジの施設拡張

### 旭化成 タイ設備本格稼働

### 海外生産8割

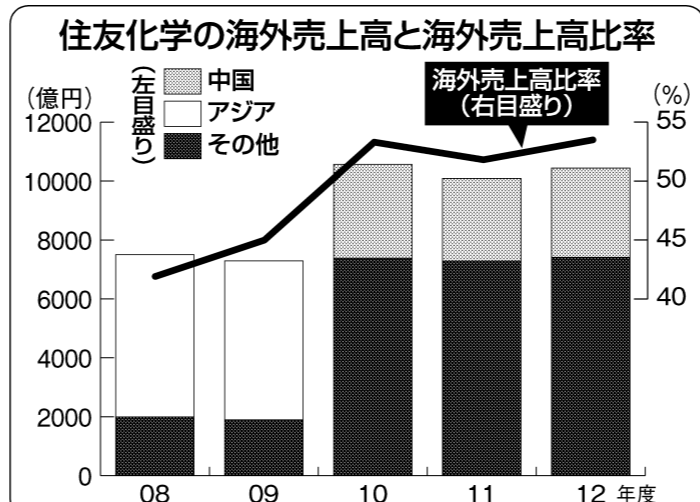
安い原料を求め、いち早く基礎化学品の海外生産を始めたのは住友化学だ。石油化学基礎原料エチレンの海外生産比率は8割に達する。1984年に生産を始めたシンガポール拠点のエチレン年産能力は110万ト。09年に稼働したサウジの石油精製・石化複合施設ベトロ・ラービグでは同130万トを持つ。

円を投じたベトロ・ラービグの拡張を決定。16年にエチレンの年産能力を現状比30万ト増の160万トに増やす。15年に千葉工場(千葉市)にあるアクリル繊維原料エチレン生産設備(年産能力38万ト)を廃止するだけに、海外石化拠点の溶液重合法ステレン

コスト競争力

は世界で初めてANの生産法「プロパン法」を採用。通常、ANは石油由来のプロピレンを主原料とするが、プロパン法は天然ガス由来のプロパンを使う。合併相手のタイタジエンゴム(SBR)の生産増強を15年度までの5カ年中期経営計画の中心に据える。アジアシア3割弱を持つANは、タイで年産能力20万トの生産設備が本格稼働した。タイ工場

備を稼働させる計画だ。アジアシア3割強を持つSBRはシンガポール工場(年産能力5万ト)が4月に商業運転を始めた。自動車の急速な普及やタイヤ性能規制の強化で世界のSBR需要は10・15年に年率14%・15%・20年同7%増える見込み。こうした需要増を取り込むため、シンガポール工場では15年に年産能力を10万トに倍増する。20年までにSBRの主要市場であるアジアや欧州を候補地に第2海外工場(年産能力10万ト規模)の建設も検討中だ。



シンガポールS-SBR工場竣工式で植樹する旭化成の藤原健嗣社長

## シエール革命取り込む

三井化学も世界2位のシエールを持つポリプロピレン樹脂混練(PPコンバウンド)の生産拡大を進めている。バンパード自動車部材に用いられるため、自動車メーカーの生産拡大に対応した動きだ。

### 首位に並ぶ

タイや中国、米国、メキシコの既存拠点を逐次増強。12年にはブラジル3位のPPコンバウンドメーカー「プロテコムスター」を買収、トヨタ自動車、日産自動車などの生産増強が相次ぐブラジルに年産能力5万5000

0トの生産拠点を確保し、これにより三井化学全体の年産能力は94万3000トとなり、世界首位のパセル(オランダ)の95万トに肩を並べる。三菱ケミカルホールディングス(HD)も安い原料を確保するため、世界シェア38%を持つアクリル樹脂原料メタクリル酸メチル(MMAモノマー)で海外生産を増強する。サウジアラビア基礎産業公社(SABIC)と合併でサウジに建設するMMAモノマー設備(年産25万ト)を15年度末に稼働予定。18年度には課題もある、一つが中国メーカーの過剰投資

### 課題は中国

ただ、海外生産の拡大には課題もある。一つが中国メーカーの過剰投資

だ。ポリエチレン繊維原料の高純度テレフタル酸(PTA)、ナイロン原料のカプロラクタムなどの化学品は、中国メーカーの過剰投資で供給過剰に陥り市況が悪化した。市況悪化が長期化すれば増強した海外拠点の稼働率も低迷する。

海外生産増強で輸出の必要がなくなった国内拠点の生産減という影響も出る。国内ではエチレン生産設備の再編が本格化しただけに、化学品生産を含めた国内コンビナートの再編がどう進むのか注目が集まることになりそうだ。

住友化学は、工業薬品、合成樹脂、情報電子関連素材、農業・肥料、医薬品など、幅広い産業や豊かな暮らしづくりを支える製品をグローバルに提供しています。

これらの分野で培ってきた様々な技術のコラボレーションで革新的な技術や製品を生み出すこと。

それが住友化学が推進する「創造的ハイブリッド・ケミストリー」。

世界中の人々の笑顔に貢献できる次の化学を求め、私たちの挑戦は続きます。

豊かな明日を支える  
創造的ハイブリッド・ケミストリー



## 化学のグローバル戦略



拡張を決めたベトロ・ラービグ

12年には約1000億

三井化学 タイなど逐次増強  
三菱ケミ D サウジに合弁設備

## 復権モノづくり